

ありがとうお姉ちゃん

長島 心愛

「こうちゃん。」と大きな声で私を呼ぶ回数が少ないのは、毎日私のすぐそばにいたからだね。今だから言えるたくさんのありがとう、お姉ちゃんの妹になれて良かった。

私には、十二才はなれたお姉ちゃんが一人います。お母さんに聞いた話ですが、十二年間、ずっと「妹が欲しい」と数えきれないほど言っていたそうです。

検しんの時に初めて私の心臓の音を聞いたお姉ちゃんは、感動して泣いてしまい、その日から成長日記を書いていたそうです。

たん生日には、毎年、最高の笑顔でおいわいしてくれました。今年で十一枚目になったメッセージカードには「こうちゃんお姉ちゃんの妹に生まれてきてくれてありがとう命は一つだから大切にまた一年元気にすごしてね」と書いてありました。今私は私が生まれた時のお姉ちゃんと同じ六年生になりました。

私が生まれる前から、お姉ちゃんは、いつか生まれる妹へと、ダンボール箱に書き、使わず大切にとっておいた私にあげたい物を残してくれていました。そのダンボールを一年生の入学式前に開けました。中には、ぬいぐるみ、ぬり絵、折り紙、キーホルダー、レ

ターセット、メモ帳、ビーズ、アクセサリーや、小学校で使える物がたくさんありました。私の知らないキャラクターもあり「何これ見た事ないよ。」「お姉ちゃんの時代はこれが人気だったの。」と笑いながら開けたのをおぼえています。私が生まれる前から私の事を思い長い間待っていてくれたお姉ちゃんの優しい気持ちがいっぱいまったダンボール箱でした。

私の周りの友達、兄弟の年が近くて一緒に学校に通っていてとてもうらやましく思っていました。一緒に学校には通えないからと授業参観は、仕事のシフトを変えてかならず来てくれました。運動会では、私はずかしくなるぐらい誰よりも大きな声で毎年応援してくれました。低学年の持久走大会では、走るのが苦手なのにと中から私の横を息を切らしながら走ってくれました。私の成長をいつも近くで見てくださいました。

でも、そんなお姉ちゃんと後一年しか一緒に暮らせません。来年の8月には、結婚して家を出てしまうからです。さみしい気持ちで今は、いっぱいだけけれど、たった一人の大好きなお姉ちゃんだから、世界一幸せになつてほしい。私が生まれる前から私を長い間待っていてくれて、年がはなれているから一緒に過ごす時間が短かいからと、いつも私を優先にそばにいてかわいがってくれたお姉ちゃん本当に、ありがとう。いつかお姉ちゃんの赤ちゃんが生まれたら、お姉ちゃんが私にしてくれた事を、私もしてあげたいです。